



慶應義塾×富士吉田市

教員職員業務支援システム構築

富士吉田市長 堀内 茂

1. 富士吉田市と慶應義塾の連携

▶ 山梨県・富士吉田市・慶應義塾連携協定

- 平成19年12月4日、山梨県、富士吉田市、慶應義塾は、富士北麓の森林文化を基軸にしてこの地より未来を先導することを目指し、イノベーションによる新たな価値の創造とこれに呼応した地域づくり及び国際社会に貢献する人材づくりのため、それぞれの持つ力を十分に発揮し連携協力する。



1. 富士吉田市と慶應義塾の連携

▶ 連携事業

- 共同研究・委託研究
(地域振興に関する調査研究、地下水年代測定・水質調査)
- 慶應義塾科学技術展への市長・地元企業の視察・参加
- 富士吉田市職員慶應義塾派遣研修(研究支援センター等)
- 高大連携(理工学部(矢上)×吉田高等学校)
- 商工会議所との連携(新たな観光施策に関する調査研究等)
- 慶應義塾環境イノベーターコースの現地調査フィールド
- 慶應義塾湘南藤沢中等部農業体験学習
- 講演会・イベントへの講師派遣
- 地域情報化研究コンソーシアムへの参加
- 共同開発(教職員業務支援システム)

1. 富士吉田市と慶應義塾の連携

◆地下水年代測定調査



富士山仙水(3セク)
地下水調査の様子

◆水を活かした富士吉田市と都市の新たな関係づくりに関する調査研究

富士信仰(御師)に関するヒアリングの様子



◆富士山駅と富士信仰を活用した観光施策等に関する調査研究(商工会議所共同事業)

地元商店会とのヒアリングの様子



◆地域資源を活かした地域振興策に関する調査

市制施行60周年記念シンポジウムで発表



2. 教職員業務支援システム

：富士吉田市基本情報

▶ 富士吉田市内の市立学校数

- 小学校：7校、中学校4校
- 職員数302名、児童数2,835名、生徒数1,586名（2011年）

▶ ICT環境・状況

- 2007年に小中学校教職員1人1台ノートパソコン達成
- 各帳票の電子化は、中学校では一部独自に取り組んでいるが、小学校では全く取組みなし

※出席簿のみ市内小中学校で統一電子化

- 各学校に1名の情報担当教員（担任業務との兼務）
- 教育研修所において、情報担当教員を対象とした年4～6回の研究会を開催している
- 各学校には、40台設置のパソコン教室が整備されています。

3. 教職員業務支援システム：背景

▶ 学校の多忙化

複雑化する問題への対応
— 質の変容, 量の増加 —

「いじめ」「不登校」など、
様々な問題を抱える
児童・生徒への対応

保護者への対応

家庭習慣と学校習慣の
大きな隔たり

個別化した生活

新学習指導要領の
実施による授業時数の増加

週あたり+1~2コマ

「外国語活動」や「食育」
新たな内容の導入

教職員の業務時間が足りない。⇒ 自宅へ持ち帰って作業

疲弊

3. 教職員業務支援システム：背景

▶ 帳票作成作業の非効率さ



パソコンで作成した文章を手書きで帳票記入している現状。

【指導要録(生徒への提出なし)作業概要】

- ①個人の各教科の成績を作成。
- ②補助簿への転記。
- ③個人宛の文章の下書き作成。
- ④所見のチェック。
- ⑤特別活動の記録のまとめ。
- ⑥指導要録への②③⑤の転記。

4. 教職員業務支援システム：目的

▶ 目的

富士吉田市内の市立小中学校(全11校)において、現在手作業で行っている指導要録や出席簿等の事務作業をシステム開発及び導入により効率化する。業務の効率化により、教員が生徒と向き合う時間を生み出す。

▶ 体制

富士吉田市、富士吉田市立教育研修所

慶應義塾大学地域情報化研究コンソーシアム

監修：(株)スクールオンインターネット研究所(SOI)

4. 教職員業務支援システム：目的

▶ 名称：あいシステム

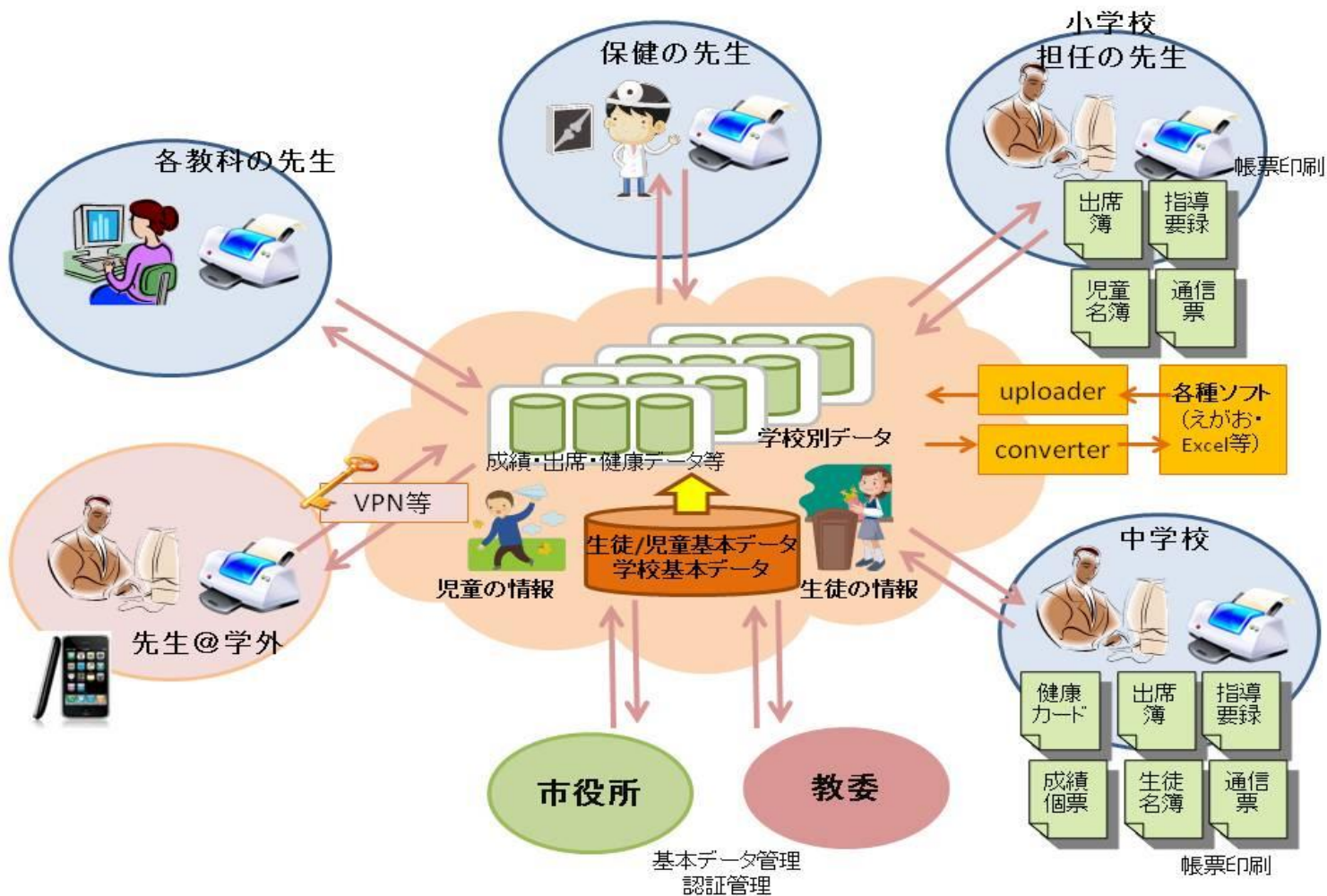
このシステムの導入により、子供たちと向き合う時間を創出し、

向きあい、学びあい、支えあい、励ましあい、助けあい、
喜びあい、認めあい、協力しあい etc . . .

様々な「あい」を作り出すシステムを作ろう！
ということで、「**あいシステム**」と名づけました。



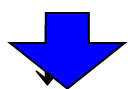
5. 教職員業務支援システム ：利用モデル概念図



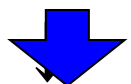
©(株)スクールオンインターネット研究所

6. 教職員業務支援システム：開発工程

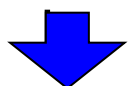
- ▶ 市内小学校7校、中学校4校の全校を対象とした、アンケート実施。



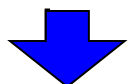
- ▶ 市内小学校7校、中学校4校の情報担当教員を対象とした、フォーカスグループインタビューを3回実施。



- ▶ 課題の抽出。



- ▶ システム開発の要求仕様を作成。



- ▶ システム設計。

7. 教職員業務支援システム：要求仕様

【入力】

- ▶ 基本データ(教育研修所で一括管理)
- 生徒児童の基本データ
- 学校データ
- 教職員データ
- ▶ 学校別データ(学校ごとの管理)
- 成績データ
- 出欠データ
- 健康データ
- クラス編成データ等

7. 教職員業務支援システム：要求仕様

【出力】

- ▶ 指導要録
- ▶ 通信票（学校ごとの特色にも一定程度対応）
- ▶ 名簿（CSV等での出力も可能）
- ▶ 健康カード・調査書（中学校）等
→ 全校で帳票の保存形式を統一することを念頭

（その他）

- ▶ 児童・生徒情報の閲覧・共有
- ▶ 安全性の確保（データ管理ガイドラインの作成）
- ▶ データの保存（法定年分の保存を前提）
- ▶ 入力されたデータエラーチェック

8. 教職員業務支援システム：将来的には

- ▶ 2012年度にプロトタイプ作成
- ▶ 2013年度本格稼働
- ▶ 基幹部分をオープンソースとし、**複数の自治体で共有可能なシステムデザイン**
- ▶ メールサービス等、学校・クラス情報、防災への応用
- ▶ 過去データの分析等(学習指導に役立てる)
- ▶ 教室からの接続を可能に(学内ネットワーク環境との整合性)
- ▶ VPN等による学外アクセスを可能に

9. 2012年の活動

▶ 富士吉田市における教員業務効率化のためのシステム開発

- 4・5月 システム開発に関わる環境整備(契約・打合せ等)
- 5～9月 前期開発(データベース・出力・入力の一部)
- 9月 教職員に使用してもらいながら問題点を確認
- 9～12月 問題点の修正・後期開発(残りの開発)
- 11～12月 データーの入れ込み作業
- 1月教職員に使用してもらいながら問題点を確認
- 1～2月問題点の修正
- 3月に本格稼動

